

音楽科 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
第5校時 14:00~14:50
学校名 特別支援学校
対 象 中学部 第3学年 18名
授業者 T1 ○○ ○○
T2 ○○ ○○
T3 ○○ ○○
T4 ○○ ○○
T5 ○○ ○○
T6 ○○ ○○
会 場 視聴覚室

1 題材名

リズムを作ろう

2 題材の目標

- ・簡単なリズム・パターンの特徴に気付くとともに、教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて簡単な音楽を作る技能を身に付ける。
- ・どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつ。
- ・リズムの面白さや音楽の仕組みに興味をもち、協働してリズム作りに取り組もうとする。

3 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①簡単なリズム・パターンの特徴に気付いている。 ②教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽を作る技能を身に付けている。	①どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。	①リズムの面白さや音楽の仕組みに興味をもち、協働してリズム作りに取り組もうとしている。

4 指導観

(1) 題材観

本単元は、特別支援学校学幼稚部教育要領小学部学習指導要領 第1章第8節

1(4) 中学校の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部または全部を、当該各教科に相当する小学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部によって、替えることができること。

を基に、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第2章各教科 第1節小学部 第2款 第1各教科

音 楽

3段階

(2)内容 A 表現

ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア)音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉗及び㉘をできるようにすること。

㉗ どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつこと。

(イ)次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどに関わって気付くこと。

㉘ 簡単なリズム・パターンの特徴

(ウ)気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。

㉗ 教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能

を受けて設定した。

共通事項として、音楽を形づくっている要素のうち、「ア 音楽を特徴付けている要素」については、「リズム」を、「イ 音楽の仕組み」については、「呼びかけとこたえ」を扱う。

「リズム」では、提示された言葉にリズムを付けたり、打楽器でリズム打ちしたりする活動を通してリズム・パターンに触れ、リズムが生み出す面白さ等に気付けるように指導する。



「呼びかけとこたえ」では、リズム・パターンに触れた経験を活かしながら、自分で言葉を選んだり考えたりして作ったリズムを使い、教員や友達とリズムでやり取りを行えるようにする。また、友達の作ったリズムを聴く活動等を通して、「今のリズムと同じようなリズムを作りたいな」、「こういうリズムが面白そう」等の思いをもてるように指導する。

国語科と関連させて、我が国の言葉がもつ音やリズムの面白さに触れられるようにする。数学的な考えを働かせながら四拍子のリズムを作ることができるように、数学科とも関連させて指導する。また、友達や教員と一緒に活動する中で、他者からの働きかけを受け止め、伝え方なども工夫して適切なコミュニケーションをとりながら音楽作りができるように、自立活動 3人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎に関する事、(4)集団への参加の基礎に関する事 6コミュニケーション(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事とも関連付けて指導する。

(2) 生徒観

本学習グループは中学部3年生18名の学習集団である。普通学級(知的学級)10名、普通学級(自閉症学級)5名、重度・重複学級3名で構成されている。

タンブリンを使ったリズム作りでは、生徒の半数が、教員の手本を見て、四拍のリズムで表現できる。タンブリンでの音楽作りにおける生徒の実態は次のとおりである。

- ・教員の手本を参考にして  (タン・タタ・タン・ウン) 等、四分音符と八分音符が含まれるリズムを作り、拍節に合わせて叩くことができる。【2名】
- ・教員の手本を参考にして  (タン・タン・ウン・ウン) 等、四分音符のリズムを拍節に合わせて叩くことができる。【10名】
- ・タンブリンを叩いたり振ったりして自由に鳴らすことができる。【6名】

四分音符以外の音符を含む、いろいろなリズム・パターンに触れる活動や、言葉にリズムを当てはめる活動を通して、音楽作りで表現できる幅を広げていきたい。

音楽の仕組みである「呼びかけとこたえ」については、初めて学習する。四拍子という音楽的な約束事の中でいろいろなリズム・パターンに触れ、「呼びかけとこたえ」という音楽の仕組みも使いながら、思いをもって音を音楽にする力を養っていきたい。

(3) 教材観

本題材では、言葉にリズムを当てはめてリズム打ちを行う場面を多く設定しており、リズム打ちの際、使用する主な楽器はタンブリンである。奏法が簡単であるため、リズムを打つことに集中でき、歯切れのいい音がするためリズムがわかりやすく、リズム打ちに適していると考えられる。リズム作りは少人数のグループで行い、相談したり意見を出し合ったりしながら活動できるようにする。


きっちりリズムを作ろう「もも」、「うどん」、「にんじん」といった言葉を四分音符と四分休符のリズムに当てはめ、タンブリンでリズム打ちを行う。四分音符を「きっちり音符」、四分休符を「きっちり休符」として、拍節に合わせて言葉を当てはめられるように指導する。

〔例〕 もも うど ん にん じん
  
(タン・タン・ウン・ウン) (タン・タン・タン・ウン) (タン・タン・タン・タン)

せっかちリズムを作ろう『きっちりリズムを作ろう』で作った「もも」、「うどん」、「にんじん」を、八分音符のリズムに当てはめ、タンブリンでリズム打ちを行う。八分音符を「せっかち音符」として、四分音符のリズムよりも前傾しているような感覚を感じられるようにしたい。

〔例〕 もも うど ん にん じん
  
(タタ・ウン・ウン・ウン) (タタ・タン・ウン・ウン) (タタ・タタ・ウン・ウン)

ゆったりリズムを作ろう「もも」、「うどん」、「にんじん」といった言葉を二分音符のリズムに当てはめる。

〔例〕   
(ターン・ターン) (ターン・ターン／ターン・ウン・ウン) (ターン・ターン／ターン・ターン)

この活動を行う際は、タンブリンとトーンチャイムを用意しておき、音を長く伸ばす特徴の二分音符を、どちらの楽器で表現するか考えられるようにする。トーンチャイムは音の余韻が長く続くことが特徴の楽器である。音の長さを十分に保って二分音符を表現するためには、タンブリンとトーンチャイムのどちらの楽器が適しているか考えられるように、音を鳴らして比較しながら行う。

リズムでお話①これまで作ったリズムを活用し、音楽の仕組みである「呼びかけとこたえ」を用いて、四拍子にのりながら、リズムでやり取りを行う。「呼びかけとこたえ」とは、ある音や旋律に

対して、もう一方の音や旋律が呼応する関係にあるものである。例えば、A という呼びかけの音や旋律に対して、B という異なった音や旋律で答えることや、A という呼びかけの音や旋律に対して、同じ A で答えること等である。本活動では、「○○ください」→「どうぞ」→「ありがとう」というやり取りの中の、○○の部分のリズムを考えたり、言葉を選んだりしてリズムを作る。四拍子の拍節を意識しながら、リズムでやり取りを行えるように指導する。

[例] 生徒 A

呼びかけ

も も | ください

(タン・タン・ウン・ウン / タン・タン・タン・ウン)

生徒 B、C、D、E、F

こたえ

どうぞ

(タン・タン・タン・ウン)

生徒 A

こたえ

ありがとう

(タタ・タタ・タン・ウン)

この部分を考えて、やり取りを行う。

リズムでお話②「リズムでお話①」で行ったやり取りの言葉を変えてリズムを作り、やり取りを行う。活動の初めに、何かをしたい時、どのような言葉でやり取りをするか考える。それらの言葉(例えば、「○○ちょうだい」→「いいよ」等)にリズムを当てはめ、やり取りを行う。

[例] 生徒 A

呼びかけ

も も | ちょうだい

(タタ・タン・ウン・ウン / タン・タン・タン・ウン)

生徒 B、C、D、E、F

こたえ

いいよ

(タン・タン・タン・ウン)

生徒 A

こたえ

ありがとう

(タタ・タタ・タン・ウン)

リズムでお店屋さん店員とお客さんになってリズム作りを行う。活動の初めに、それぞれのお店で店員とお客さんがどのようなやり取りをするか考える。それらの言葉(例えば、店員「いらっしゃい」→お客さん「いちご、ありますか」→店員「はいどうぞ」→お客さん「ありがとう」等)にリズムを当てはめ、やり取りを行う。

[例] 生徒 B、C、D、E、F

呼びかけ

いらっしゃい

(タタ・タタ・タン・ウン)

生徒 A

こたえ

いちご | ありますか

(タン・タン・タン・ウン / タタ・タタ・タン・ウン)

生徒 B、C、D、E、F はいどうぞ

呼びかけ

$\frac{4}{4}$

(タン・タン・タン・ウン)

生徒 A あり がと う

こたえ

$\frac{4}{4}$

(タタ・タタ・タン・ウン)

やり取りの際は、これまでリズム打ちで使用してきたタンブリンやトーンチャイムに加えて、カスタネット、トライアングル、ウッドブロックを用意する。いろいろな楽器の音色を、味わったり比較したりしながらリズム作りをすることが、「この楽器とこの楽器でやり取りしたら面白そう」等、音を音楽にすることに思いをもって取り組むことに適していると考えられる。各楽器の特徴は次の通りである。

- ㊦ カスタネット: はっきりとした歯切れの良い音の特徴である。
- ㊧ トライアングル: 音の余韻が長く残ることが特徴である。本活動ではスタンド付きのものを使用する。
- ㊨ ウッドブロック: 木製の楽器で、木製のバチなどで叩いて音を出す。時計の針を刻む効果音などにも使われ、明るく堅い音の特徴である。本活動では筒状のものが二つまっすぐつながっているものを使用する。

5 年間指導計画における位置付け

本校の中学部は1単位時間が50分間の「音楽」を週1時間設定している。各題材において、学習指導要領の示す中学部段階の音楽科で取り扱う「A表現」（「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「身体表現」の四分野）、「B鑑賞」の二つの領域の内容と、「共通事項」の内容をバランスよく取り扱いながら指導している。

学期	題材名	時数
第1学期	気持ちを表現しよう	3時間
	日本の音楽	4時間
	表現を工夫しよう	5時間
第2学期	合わせて表現しよう	8時間
	水元まつりに向けて	5時間
第3学期	リズムを作ろう【本題材】	6時間
	卒業式に向けて	4時間

6 題材の指導計画と評価計画（全6時間）

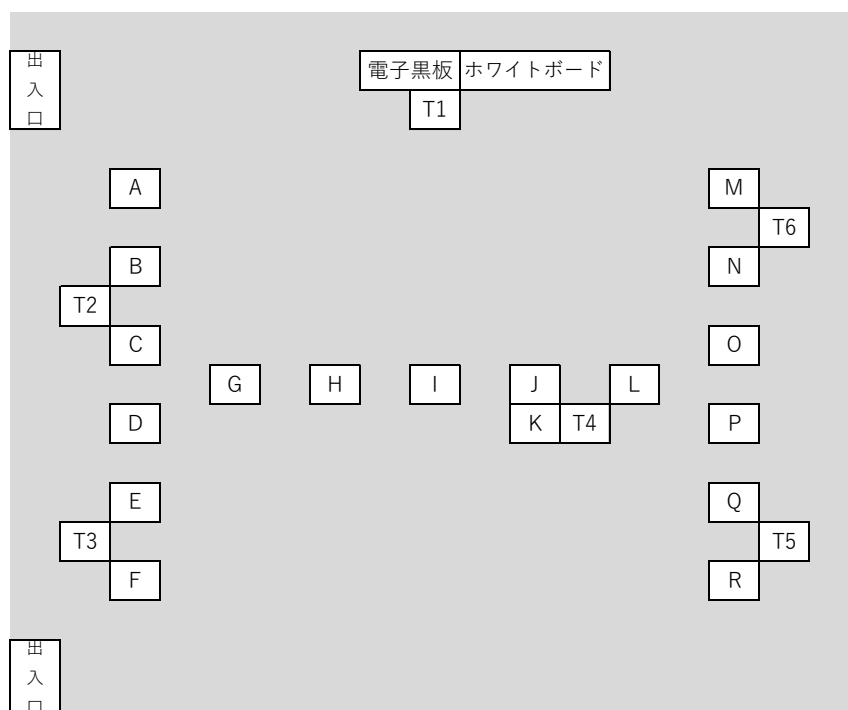
時間	目標	○学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)
第1時 第2時	・簡単なリズム・パターンの特徴に気付く。	○「きっちりリズムを作ろう」 ・提示された言葉をリズムに当てはめて、四拍子に合わせてタンブリンでリズム打ちをする。 ・「タン」、「ウン」を表す音符や休符、拍子等につ	ア-①（行動観察）

		<p>いて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、言葉に四分音符や四分休符を当てはめてリズムを作り、タンブリンでリズム打ちをする。 ・グループごとに作ったリズムを発表する。 <p>○「せっかちリズムを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「タタ」を表す音符（八分音符）について知る。 ・グループごとに「きっちりリズムを作ろう」で作ったリズムを、八分音符を使ったリズムに変化させてリズムを作り、四拍子に合わせてタンブリンでリズム打ちをする。 ・グループごとに作ったリズムを発表し、リズム打ちをする。 <p>○「ゆったりリズムを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ターン」を表す音符（二分音符）について知る。 ・グループごとに「きっちりリズムを作ろう」で作ったリズムを、二分音符を使ったリズムに変化させてリズムを作る。 ・二分音符のリズム打ちに適している楽器を選択してリズム打ちをする。 ・グループごとに作ったリズムを発表し、四拍子に合わせてリズム打ちをする。 	
第3時 (本時)	・リズムの面白さや音楽の仕組みに興味を持ち、協働してリズム作りに取り組む。	<p>○「リズムでお話①」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の手本を見たり、実際に教員とリズムのやり取りを行ったりして、リズムを作ることや、リズムでやり取りをすることについてイメージをもつ。 ・グループで「○○ください」の○○の部分イラストから選んでリズムを作る。 ・グループで「呼びかけ」、「こたえ」の役割を決め、リズムでやり取りを行う。 ・グループごとにリズムによるやり取りを発表する。 	ウー①（行動観察）
第4時	・教師や友達と一緒に音楽の仕組み	<p>○「リズムでお話②」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を思い出したり、教員の手本を見た 	アー②（行動観察）

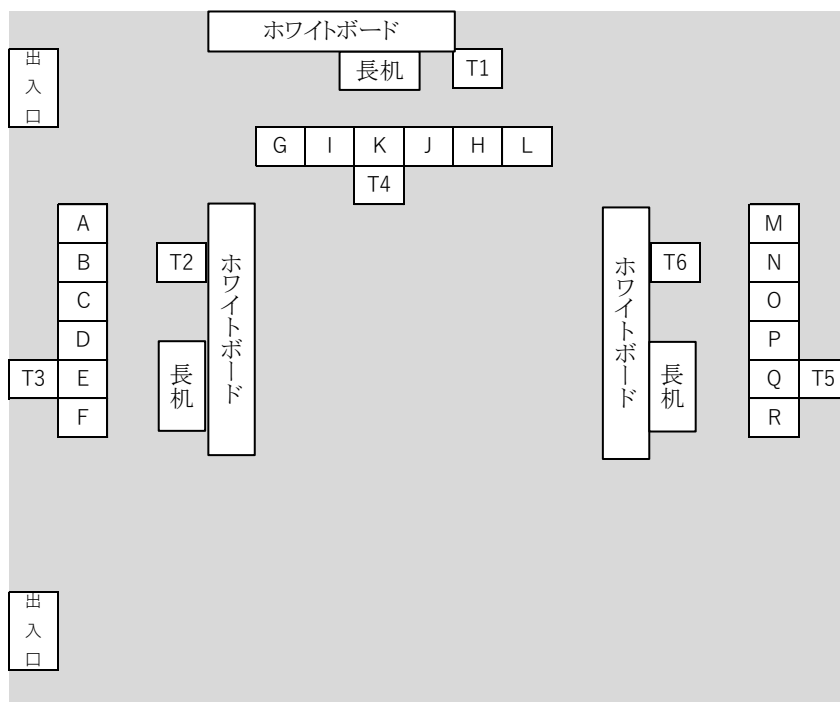
	を用いて、簡単な音楽を作る技能を身に付ける。	りして、リズムを作ることや、リズムでやり取りをすることについてイメージをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、何か欲しい時、どのような言葉でやり取りをするか考える。 ・考えた言葉にリズムを当てはめ、「呼びかけ」、「こたえ」の役割を決めてリズムでやり取りをする。 ・グループごとにリズムによるやり取りを発表する。 	
第5時 第6時	・どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつ。	○「リズムでお店屋さん」 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の手本を見て、リズムによる店員とお客さんのやり取りや、「呼びかけとこたえ」についてのイメージをもつ。 ・グループごとに、お店やさんの店員とお客さんのやり取りの言葉を考える。 ・考えた言葉にリズムを当てはめ、店員とお客さんの役になってリズムでやり取りをする。 ・リズムでのやり取りをする時、どの楽器を使うか、実際に楽器でリズム打ちをしながら決める。 ・グループごとにリズムによるやり取りを発表する。 	イー①（行動観察）

7 配置図

【全体での活動時】



【グループでの活動時】



8 指導に当たって

集団の中で一人一人の児童・生徒が「がんばればできそうなこと」を見極めた授業づくりをするため、以下のような生徒の実態に合わせた支援や工夫を行う。

ア グループ編成の工夫

友達からの働きかけによって学習を頑張ったり、友達の様子を見て「自分もやってみたい」と前向きに学習に取り組めたりするようなグループ編成を行う。「リズムでお話①、②」や「リズムでお店やさん」で、やり取りの言葉を考える活動で、言語表現が多い生徒がアイデアを出して、言語表現が少ない生徒と一緒に取り組めるようにする。

イ 表現方法の工夫

リズム打ちの際、楽器で表現することが難しい生徒には、次のような表現方法を提示し、自分が出来る方法で表現してリズムの特徴を感じることができるようになる。

- (ア) 声に抑揚をつけるなど、部分的に強調して表現する。
- (イ) 身体や頭部を左右や上下に動かして表現する。
- (ウ) 手拍子をして表現する。
- (エ) 手で膝を打って表現する。
- (オ) 足踏みをして表現する。

ウ 自立して楽器を鳴らすことが難しい生徒や、発語がない生徒の支援の工夫

リズム打ちの際は、教員が言葉を言いながら一緒にリズム打ちをし、言葉とリズムが合わさる面白さや、タン（四分音符）とタタ（八分音符）といった音の長さの違い等を感じられるようにする。自分で楽器を持って鳴らすことが難しい生徒に対しては、例えば机の上にタンブリンを置いて肘を

支えて叩いたり、生徒から見えやすかったり手を伸ばして叩きやすかったりする位置に、教員が楽器を提示する。

また、「リズムでお話①、②」や「リズムでお店やさん」の活動の際は、「〇〇ください」の〇〇の部分の言葉を決める等、グループの中で役割を担えるようにする。言葉を決める際は、2種類のイラストを提示し、自分の好きな方を指差し等で選択できるようにする。

9 本時（6時間扱いの第3時間目）

（1）本時の目標

・リズムの面白さや音楽の仕組みに興味をもち、協働してリズム作りに取り組む。

（2）本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の確認 ・学習活動の見直しをもつ。 ○これまでの復習 ・これまで学習した音符や休符、作ったリズムについて復習する。 ○本時の説明 ・T1とT2の手本を見て、リズムでのやり取りの仕方について知る。 ・代表生徒がやり取りを行い、グループワークでの活動について見直しをもつ。 ・リズム作りの際に気を付けることについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり、短い文章で分かりやすく説明する。 ・思い出しやすいように、音符や休符の特徴を端的に伝える。 ・リズムでのやり取りがわかりやすいように、「呼びかけ」と「こたえ」の役割や、やり取りをする時の言葉やリズムを明確にして手本を見せる。 ・グループワークの見通しがもてるように、グループワークと同じ流れで行う。 ・4拍のリズムを作ることを意識できるように、リズムの作り方の手本を見せる。 	
展開① 20分	<ul style="list-style-type: none"> ○「リズムでお話①」（グループワーク） ・「〇〇ください」の〇〇の部分の言葉を、提示されたイラストから選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発語のない生徒や言語表現の少ない生徒が選びやすいように、タブレット端末で2種類のイラストを提示する。 	ウー①（行動観察）

	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ言葉にリズムをあてはめてリズムでやり取りをする。 ※上記の活動を時間内で繰り返し、発表できるように準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「呼びかけ」と「こたえ」の役割を明確にするために、「呼びかけ」役はケンステップで立ち位置を示す。 ※「呼びかけ」役の生徒は交代する。 	
<p>展開②</p> <p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとの発表 ・作ったリズムをグループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表の後に、他に作ったリズムについて発問したり、使っていたリズム・パターンについて触れたりし、他の生徒にとってもリズム作りの発想や気付きを得られるようにする。 	
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のまとめ ・本時の活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなリズムが面白かったか、印象に残ったリズムや作ってみたいリズムがあるか等の発問をして、リズムを作ることに思いをもてるようにする。 	

(3) 板書計画

グループ・ワークでは、グループごとにタブレット端末でイラストや写真を表示して行う。各グループに八つの言葉（食べ物）が割り当てられており、グループによって言葉は異なる。

(4) 授業観察の視点

- ・集団の中で一人一人が「がんばればできそうなこと」に取り組めるような楽器、教材（音符カード）、場面が設定されていたか。
- ・生徒同士でコミュニケーション取り合えるようなグループ編成や支援がされていたか。
- ・生徒が自分で考えたり判断したりして取り組めるような場面はあったか。
- ・教員間の連携・協力、支援方法は適切であったか。
- ・生徒が音楽表現活動に自信をもてるような言葉掛けができていたか。